

令和 2 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。
評価ⅣはA B C Dで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

常陽中

学 校

令和 2 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはA B C Dで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

幼 稚 園

令和2年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ① 生徒が主体的に学ぶ授業作りに努める | ② 規範意識の醸成と授業規律の遵守に努める |
| ③ 家庭学習の充実・自学自習の習慣化に努める | ④ 生徒会活動の充実により、リーダーの育成に努める |

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		3.5	3
取組とその成果	課題と改善策		
・ICTを積極的に活用するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことのできる授業改善に意欲的に取り組んだ。 ・自主学習ノートなどに積極的に取り組むことにより、家庭学習の充実を図るとともに、自学自習の習慣化に努めた。 ・特別支援コーディネーターを中心に、定期的に特別支援委員会を実施し、情報交換を行うとともに、職員会議により全教職員で共通理解を行った。 ・家庭科、保健体育科の授業を通して、生活習慣病についての知識を深め、望ましい生活習慣の育成に取り組んだ。 ・保健体育科の授業に毎時間持久走を導入し、持久力の向上に努めるとともに、その集大成として、マラソン大会に取り組み、体力・運動能力の向上に努めた。	・3年生においては、教職員の授業改善などの工夫と努力により、学力の向上が見られた。特に、国語科・数学科。 ・1・2年生のステップアップ調査から生徒の実態と教職員の指導方法など、多角的に分析し、日々の授業に反映させていく必要がある。 ・数学科において、少人数学習を習熟度別に行うことで、底辺層の生徒の学力を引き上げることができた。 ・放課後学習を希望制だけでなく、指名制を導入するなど、活性化させる必要がある。 ・運動する生徒としない生徒の二極化が進んでいる現状を踏まえ、保健体育科の授業や部活動、そして、体育的行事を通して運動習慣を身につける必要がある。		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もががすしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3.5	3
取組とその成果	課題と改善策		
・『あいさつ尼崎一』を目標に掲げ、日々のあいさつ運動による登下校指導や授業・朝学活・終学活などでのあいさつを徹底する事で、生徒の意識を高め、礼節を身につけ集団生活が行えるように指導している。 ・日々の学校生活や行事などを通して、思いやりや相手を尊重する姿勢、信頼や協力の大切さなどを意識させ指導している。 ・毎学期、教育相談を実施し、生徒の内面の理解に努めるとともに、全教職員で情報交換を行い、いじめに対する感度の向上に取り組んだ。 ・毎学期、アセスの調査を行い、誰もががすしやすい学校の環境づくりに努めた。 ・職業選択や進路選択について、講師を招聘し、講演会を実施した。	・教職員から積極的にあいさつなどの声かけを行うことで、生徒と教職員との良好な関係性を構築できた。 ・いじめ案件が昨年度より増加しているが、教職員の感度の向上と捉えることが出来る。いじめについては、些細なことでも早期に認知し、教職員が組織的に対応できる体制をさらに整えていく。 ・不登校生徒の数は、学校規模が縮小しているにもかかわらず、増加傾向にあるため、小学校との連携を深めるとともに、カウンセリングや登校したくなる学校作りを進めていく必要がある。 ・今年度コロナ禍のため、2年生でのトライやるウィークが一日だけの実施となったが、1年生での職業体験の講演会、3年生での進路選択と3年間を見据えた指導が定着している。		

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する		4	4
取組とその成果	課題と改善策		
・研究推進体制として、全教職員が「総務班」「学力向上班」「小中連携班」のいずれかのグループに所属し、生徒の学力向上に取り組むとともに、教職員の指導力・授業力・資質向上に向けた取り組みを行っている。 ・定時退勤日を週に2日間設定し、業務改善に向けて積極的に取り組んでいる。 ・学期末に全校生徒で行っている「ふれあい清掃」に育友会・地域の方々に参加していただき、ゴミ一つない校区作りに取り組んでいる。 ・今年度は、コロナ禍のため実施できなかったが、例年、武庫地区の名所の一つである武庫川のコスモス園の種まきに生徒会執行部や有志の生徒が参加するなど地域貢献に取り組んでいる。	・1・2年生のステップアップ調査や3年生の学力調査の結果を有効に活用し、生徒の実態を分析するとともに、教職員が自身の指導法を振り返り、改善につなげる取り組みが必要である。 ・学年や部活動に考慮し、全教職員を2グループに分け、定時退勤日を完全実施できるように取り組んでいるが、さらに、教職員の意識改善が必要である。 ・生徒会が中心となり、地域の方々などに支えられるばかりでなく、積極的に貢献できるように意識を高める必要がある。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		4	4
取組とその成果	課題と改善策		
・AEDの使用方法や心肺蘇生法などの救急救命講習を保健体育科の授業を通して2年生全員に指導するとともに、尼崎市消防局から講師を招聘し、職員研修を実施した。 ・登下校の安全確保のため、定期的に通学路の生徒の登校状況を把握し、適宜指導するとともに、朝礼等を利用し全校生徒への注意喚起に取り組んだ。 ・今年度は、コロナ禍のため参加を見合わせたが、例年、生徒会が「むこっ子防災キャラバン」に参加し、高校生や大学生と共に防災について学習し、全校生徒に周知・広報を行っている。	・生徒会活動の一環として、登下校の安全について生徒会が中心になって注意喚起に取り組む必要がある。 ・生徒自らが、自身の安全を確保するために自主的な取り組みや安全に対する意識の向上が必要である。 ・予告なしの防災訓練など、実施方法の工夫も必要である。		

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		4	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
・全教職員が、授業改善に積極的に取り組むことで、主体的に学ぶ姿勢が身につく。 ・生徒の特性に応じたきめ細やかな指導により、さらに規範意識が向上し、落ち着いた学習環境が整っている。 ・自主学習ノートなどの取り組みにより、家庭学習の充実と自学自習の習慣化に取り組んでいる。 ・長期休業期間中や日々の学習活動における課題などの提出に重点的に取り組んでいる。	・全教職員で授業規律の遵守について、共通理解を図ることが必要である。 ・課題の提出はできるようになったが、自ら進んで学習する態度の育成が必要である。 ・定期テストの間違い直しや学習内容の復習など、自身の学習を日常的に振り返る必要がある。 ・家庭学習・自学自習の習慣化に向けてさらなる手立てが必要である。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		4	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組むことで、生徒の学習活動が活発に、そして、積極的に行われるようになった。 ・発達に特性が見られる生徒に対して、専門家のアドバイスを受け、対応することで生徒の理解が深まり、生徒の特性に応じた指導を行うことができた。	・ICT等を積極的に取り入れ、授業改善に努める必要がある。 ・来年度、一人一台のタブレットが導入されるにあたり、学習効果が上がり、学力向上につながる方策を検討する必要がある。 ・発達に特性のある生徒に対しての対応を、全教職員で研修を深める必要がある。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい	3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2:取り組んでいるが成果が十分でない	1:取組が不十分である

学 校 関 係 者 意 見 等	評価Ⅲ
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む ・教員アンケートを見ると、学力向上等の回答が「達成出来た」が約50%と、先生方は遠慮がちですが、逆に考えるとまだまだ余力があるということで期待が持てる。 ・体力・運動能力の向上については、先生方も自信を持って対応されている。 ・朝学習、チャイム着席ができ、授業にしっかりと取り組んでいる生徒が多く、学力向上につながると期待できる。 ・学習面・体力面などに良く取り組んでいる。放課後学習の指導も良く努力している。 ・コロナ禍の中、大変努力されている。	3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る ・規範意識を養い、落ち着いた学校生活を送ることで自己肯定感を育み、3年間計画的にキャリア教育を行っている。また、道徳教育にも力を入れており、今後ますます期待が持てる。 ・来客者に対して礼儀正しいあいさつができるなど、朝のあいさつ運動などに積極的に取り組んでいる成果があらわれている。 ・生徒にとって学校が自分たちにとって必要な場であると感じられる。 ・学校生活に真摯に取り組んでいる姿勢が感じられる。	3.5
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む ・開校以来、常に地域との連携を意識してきた経緯があり、今後、教職員が新しくなり、年齢が若くなっていったとしても、家庭・地域・育友会などとのさらなる連携を期待している。 ・コロナ禍でこれまでと同じようにいかない現状ではあったが、コロナを言い訳にせず、生徒ファーストで教育活動を実践していた様子が温かい気持ちになった。 ・スマホを持つ生徒が増えてきたことにより、正しい使用方法を継続的に指導する必要性があると感じる。 ・今年度は、コロナ禍のため、地域と学校との連携が充実していないように感じる。	3
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る ・校内の安全点検とともに、校区内の安全点検を年に一度は地域との連携を兼ねて実施してはどうかと考える。 ・防災訓練は必要であるが、基本的な集団行動の徹底を入学後の早い時期から実施することで、各行事・学校生活・部活動などが充実するのではないかと考える。 ・よく整理整頓され、学校の雰囲気も落ち着いている。 ・いつ、どんなことが起こるかかわからない時代となり、学校・家庭・地域の話し合いや体験者の話を聞く機会を作ることが大切であると考え。	3
■教育目標 ・コロナ禍にもかかわらず、教科指導・各種行事・部活動など、教職員が創意工夫し、生徒に充実した学校生活を実現させ、目標の「生徒が通学したい、保護者が通学させたい、地域から愛される学校」を達成できている。 ・「校歌をしっかりと歌えるようにしたい」との思いは素晴らしいことであると考え。	3.5
■研究テーマ ・学力向上に向け、教職員の努力は理解できるが、生徒の家庭学習の時間の少なさ、自主学習への取り組みの姿勢の甘さが非常に気になる。 ・生徒指導・発達に特性のある生徒への対応・3年間を見据えたキャリア教育などは、十分に取組むことができています。 ・命の大切さや人権・社会のルールなどについて学ぶ機会が多い事が学校のルールを守る生徒の多さにつながっていると考え。集団生活に馴染みにくい生徒に対してもきめ細やかな対応ができています。 ・テーマが多くあり、絞ってみてはどうかと考える。	3
■ ・「常陽中だより」・「常陽の友」などにより、日々の教育活動の様子がうかがえる。 ・コロナ禍の中でも、感染症に負けず、正しく向き合って恐れずに対処できていた。	
評 価 項 目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B

集計表

I	
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	3.5
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3.5
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	4
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	4
教育目標	4
研究テーマ	4
II	
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	4
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	4
教育目標	3.5
研究テーマ	3.5
III	
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3.5
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	3
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	3
教育目標	3.5
研究テーマ	3
IV	
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B